

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより  
第29号  
2019(令和元)年5月26日  
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 杼屋のはなし — 京都西陣・長谷川杼製作所を訪ねて —

「杼屋」と書いて「ひいや」と読みます。「杼(ひ)」とは、機に張った経糸(たていと)の間へ緯糸(よこいと)を通すときに用いる、機織りには欠かすことの出来ない道具の一つです。杼屋はその杼を扱う専門店で、長谷川杼製作所(京都市上京区五辻通千本西入風呂屋町)は、京都の西陣に残る最後の杼屋、日本にただ一軒の手作りの杼屋(『杼の栞①』第3刷平成29年刊より)です。

前号で紹介した大和機による初作品を織り上げる際に、機織り教室の先生から教えていただいたのが長谷川杼製作所で作られた「手越織出織終杼(てごしおりだしおりじまいび)」でした。織り上げ直前になると、どうしても経糸の開口が狭くなり、通常の「投げ杼(なげび)」が通りにくくなってきます。そのとき、通常の杼より薄めで細長く、ほぼ布地の織り巾と同じ長さの杼があれば、苦勞せずに、右(左)手から左(右)手へ直接、杼を手で送ることができます。この手越織出織終杼があれば、経糸の無駄を最小限にとどめ、ぎりぎりまで織り上げることが可能になります。「この杼を買い求めることができるのは、今となっては長谷川さんの所しかないので、これからも機織りを続けられるつもりであれば、ぜひ購入しておかれた方がいいですよ」とのアドバイスをいただき、早速、長谷川杼製作所を訪ねることにしました。

事前にお電話を入れ、日時の打ち合わせをした上でお訪ねしたのが5月1日。本来であればお休みのところを、わざわざお店を開けて待って下さっていました。

ご主人の長谷川淳一氏は昭和8年(1933)のお生まれ。祖父が始めた杼屋の技術を受け継ぐ3代目で、国選定保存技術「杼制作」保持者(平成11年認定)でもいらっしゃいます。当日は、杼制作の最後の工程である「磨き」を担当されている奥様と二人で迎えてくださいました。

杼には、よく知られている「投げ杼」のほか、「すくい杼」、「縫取杼(ぬいとりび)」、「弾き杼(はじきび)」などの種類があり、さらに用途によって「綴杼(つづれび)」、「片松葉(かたまつば)」、「箱弦式両松葉杼(はこづるしきりょうまつばび)」、「竹弦付四本松葉杼(たけづるしきよんほんまつばび)」、「長刀横出杼(なぎなたよこだしび)」、「手越絵緯杼(てごしえぬきび)」、「鯉杼(かつおび)」、「手越紬杼(てごしつむぎび)」、「田舎杼(いなかび)」など、多種多様なタイプがあります。しかも、用いる織機に応じて、寸法の調整も必要になってきます。

長谷川氏は、使い手の感想や要望を聞きながら、つねにできるだけ使いやすい杼を提供できるように努めてこられたそうです。

「最近では白樫の杼も出回っているが、素材としては赤樫が一番。ただ、最近では良質の赤樫が手に入りにくくなってきた。また、杼の製作には欠かせない陶器製の『糸口(いとぐち)』や砲金の『杼金(ひがね)』をつくることのできる職人もいなくなりました。今、手許に残っている材料がなくなれば、もう新たに杼をつくることはできません。…」とおっしゃっておられました。



長谷川淳一氏と購入した織出織終杼(手前)

### Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成31年4月24日～令和元年5月23日)

青森県1、岩手県1、千葉県2、神奈川県1、山梨県1、大阪府1、和歌山県1、広島県2、沖縄県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成31年4月24日～令和元年5月23日)

メールを含む各種相談件数3、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数20名



## 《綿の種まき&スピンドル体験 — 令和元年5月3日》

1号畑にて、午前11時より開催。最高気温が 27℃と、夏を思わせる快晴のお天気のもと、大勢の方々にご参加いただきました。参加者はスタッフを含めて 21 名。

まず、綿の種まき要領について説明。その後、みなさんにお手伝いいただき、無事に今年の種まきが完了。その後、希望者の方を対象に木綿庵特製簡易スピンドルによる糸紡ぎ体験を実施しました。ご参加くださいましたみなさん、ほんとうにありがとうございました



## 《綿の栽培記録 2019》 — 平成31年(令和元年)度版 その4 —

今年も八十八夜の翌日5月3日に、1号畑にて種まきを行いました。今年では和綿を86穴、洋綿を34穴に3点蒔きで植え付けました。一番早いものは4日後に発芽。ただし、大方の植え穴で発芽が確認されたのは約2週間後。播種後20日を過ぎてから発芽したものもありました。

今年では、1号畑の他に、2号西隣借地(5号畑)、2号東隣借地(6号畑)、乙木町内休耕田(7号畑)にも綿種を蒔きました。以下のとおりです。今年ではカラードコットン、茶綿、緑綿の栽培にも挑戦。

5号畑：和の白綿47穴、洋の白綿20穴。6号畑：和の茶綿112穴、洋の茶綿42穴。7号畑：洋の緑綿112穴。播種日は、7号畑4月28日。6号畑5月5日、5号畑5月8日。5月25日時点で最も生長の早い苗で、7号畑の洋の緑綿は草丈約20cm、1号畑の和の白綿で約10cm。5号畑の紅花、6号畑の藍も順調です。写真は左：1号畑和の白綿5月11日、中：1号畑和の白綿5月25日背丈10cm、右：7号畑の洋の緑綿5月25日背丈20cm。



### 【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成29年, 2017産。丹羽正行氏による打ち綿)  
4月24日～5月23日 (作業実日数8日) 糸の総量26.6g (7.1匁) 総時間60分 (1時間00分)  
※1分間≒0.443g 1時間≒26.6g (7.1匁)

◇日の出が早くなるにつけ、畑に出る時間も早くなり、早朝の糸紡ぎの時間を確保することが難しくなりました。

### 【研修等の記録】

- 令和元年05月01日 長谷川杼屋(京都市上京区五辻通)を訪問。長谷川淳一氏と懇談、杼を購入。
- 令和元年05月02日 「寿恵更紗(すえさらさ)ミュージアム」(京都府向日市)を訪問、見学
- 令和元年05月03日 木綿庵 1号畑にて「綿の種まき&スピンドル体験」実施
- 令和元年05月06日 天理参考館にてワークショップ「綿に親しむ」第1回、講師を担当
- 令和元年05月11日 天理参考館にてワークショップ「綿に親しむ」第2回、講師を担当